大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学　ハイレベル枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F140110110592	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）
大学名	九州大学	設置区分	国立	事業計画名	九州大学オープン型高度情報人材育成事業
学校種	大学	都道府県	福岡		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度			令和5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　9月 情報系副専攻がカリキュラム設計 ②　9月 他大学・高専への教育支援実施 ③ 11月 システム情報科学府担当教員（任期無，教授・准教授相当） 5名選考 ④ 11月 情報理工学専攻の指導，教育 ⑤ 11月 講義室，研究室等改修工事（設計等を含む） （竣工予定日：R6年3月（研究室改修（１期）））	①　9月 情報系副専攻がカリキュラム設計 ②　9月 他大学・高専への教育支援実施 ③ 12月 システム情報科学府担当教員（任期無，教授・准教授相当） 2名着任 ④ 11月 情報理工学専攻の指導，教育 ⑤ 11月 講義室，研究室等改修工事（設計等を含む） （竣工予定日：R6年3月（研究室改修（１期））） ⑥　3月 令和5年度施設設備整備費増額　（R6.2.28承認）		
令和6年度	6月 システム情報科学府情報理工学専攻（修士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出予定	6月 システム情報科学府情報理工学専攻（修士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出	令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　4月 情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当） 5名選考 ②　4月 システム情報科学府担当教員（任期有，助教相当） 5名選考 ③　4月 職域限定職員（事務） 2名選考 ④　4月 R7修士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：105→135名) ⑤　4月 情報理工学専攻の指導，教育 ⑥　4月 情報系副専攻参加募集，既存講義については受講開始 ⑦　4月 情報系副専攻新規講義準備 ⑧　4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑨　8月 R7修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑩　2月 講義室，研究室等改修工事完了 （竣工予定日：R7年2月（講義室改修）、R6年9月（研究室改修（２期）））	①4月 システム情報科学府担当教員（任期無，准教授相当） 2名着任 （R7.3.19承認） ②4月 R7修士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：105→135名) ③4月 情報理工学専攻の指導，教育 ④4月 情報系副専攻参加募集,既存講義については受講開始 ⑤4月 情報系副専攻新規講義準備 ⑥4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑦4月 職域限定職員（事務） 1名選考 (R7.3.19承認) ⑧4月 学術研究員 1名選考 （R7.3.19承認） ⑨8月 職域限定職員（事務） 1名選考 (R7.3.19承認) ⑩9月 R7修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) (R7.3.19承認) ⑪5月 システム情報科学府担当教員（任期無，教授相当） 1名着任 (R7.3.19承認) ⑫9月 システム情報科学府担当教員(任期有，助教相当） 2名選考 (R7.3.19承認) ⑬10月 職域限定職員（事務） 1名選考 (R7.3.19承認) ⑭11月 情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当） 1名選考 （R7.3.19承認） ⑮2月 情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当） 1名選考 （R7.3.19承認） ⑯2月 講義室、研究室等改修工事完了（竣工：R7年3月（講義室改修）、R6年6月（研究室改修　２期））		
令和7年度			令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻全面実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 4 月 情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当） 3名選考 ⑦ 4月 システム情報科学府担当教員(任期有,助教相当)2名選考(R8.2.3承認) ⑧ 4月 マウニカルフケ71名選考(R8.2.3承認) ⑥ 8月 R8修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑨ 3月 電波暗室改修工事(初年度)(竣工予定日：R8年7月上旬)(R8.2.3承認)	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻全面実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 4 月 情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当） 3名選考 ⑦ 4月 システム情報科学府担当教員(任期有,助教相当)2名着任 ⑧ 4月 マウニカルフケ71名着任 ⑥ 8月 R8修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑨ 3月 電波暗室改修工事(初年度)(竣工予定日：R8年7月上旬)		
令和8年度	6月 システム情報科学府情報理工学専攻（博士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出予定		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学(2学年分で270名に) ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R9修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥10月 R9博士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：29→34名) ⑦ 2月 R9博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R10修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R10博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名) ⑦ 3月 中間自己点検評価（定員充足状況，副専攻受講者状況，他大学・高専への教育支援状況）			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R11修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R11博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R12修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R12博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R13修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R13博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R14修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R14博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ② 4月 情報理工学専攻の指導，教育 ③ 4月 情報系副専攻実施 ④ 4月 他大学・高専への教育支援実施 ⑤ 8月 R15修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥ 2月 R15博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名) ⑦ 3月 最終自己点検評価			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	九州大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
すべての項目が要件を満たしている												

①～⑬の要件を満たしていない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑬,⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑬文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	申請中もしくは申請を予定している

４－１.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では，指定国立大学採択に伴いVISION2030を策定した．その一つは「社会共創」であり，自治体や企業等との全学的な連携拡充を謳っている．一方，情報教育の場においては，すでに多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する．例えば，①データサイエンス・AI教育については，ADS育成室や数理・データサイエンス教育研究センターにおいて九州経済産業局やふくおかアイストをリエゾンとして企業連携教育を実施もしくは計画，②セキュリティー教育については，EnPiT-Proにおいて講義担当など様々な形で実務家教員がダイレクトに関与，③半導体教育については，新設の価値創造型半導体人材育成センターにおいて実務家教員による講義を計画，が挙げられる．これら以外にも，④大学院（修士・博士共に）で企業インターンシップを単位化，⑤企業データ分析講座（電通，トライアル），⑥自治体や企業等との連携が多い卓越大学院「マス・フォア・イノベーション連係学府」への参画，⑦共同研究（シス情全体でR4年度は82件）と受託研究（同68件）を通した実践的教育，を実施している．	①データサイエンス・AI教育について，R7年度も引き続き九州経済産業局との「持続可能な産学連携教育」を進めた．具体的にはR7は産学それぞれが提供可能な実務家教員・リスキリング教育を共有するプラットフォームをアップデートし，より多くの大学・企業が互いに「何が提供でき，何を提供してほしいか」という情報交換ができるようにした．②EnPiT-Pro (R7年度よりKyutech ARISEと連携）におけるセキュリティー教育では，講義担当など様々な形で実務家教員が引き続き関与している。③半導体教育については，価値創造型半導体人材育成センター教員を中心として，実務家教員による講義ならびにアドバンスソフト株式会社の協力による「プロセス・デバイスシミュレーションソフト実習講座」の実施，JASM/TSMC-JDCの研究者・技術者による講義（大学院生58名が単位取得）および米国Rochester Institute of Technology，Global Foundry等への学生研修派遣（4名参加），米国Micron本社・Boise州立大学への学生研修派遣（11名参加），米国Virginia Polytechnic Institute and State Universityへの学生研修派遣(4名参加),米国University of Washingtonへの学生研修派遣（2名参加）を行った．④⑤⑥については継続．⑦共同研究（シス情全体で81件，前年度より81百万円増 ）と受託研究（シス情全体で80件，前年度より22件増・425百万増）を通した実践的教育を実施しており，堅調である．	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報科学研究院では，初等中等教育との連携も各種実施しており，本事業でも推進する．最も歴史あるものが「中学生の科学実験教室」である．KDDI財団のご支援の下で20年以上実施しており，毎年100人の定員がすぐに埋まる人気イベントとなっている．高校生については，SSH（スーパーサイエンスハイルクール）事業等での出前講義に加え，H30からは未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を開始した．本学の講義を受講した後，個別指導のもとで各種研究を実施するイベントであり，本研究院の複数教員も受講生の受け入れを行っている．R4は志願者350名のうち72名を採択，そこからの個別指導採択者28名のうち3名が本研究院にて研究指導を受けた． 高校における情報必修化については高大連携での議論を開始しており，現時点では本学のラーニングアナリティクスセンターを介して，近隣公立高校7-8校との情報交換を行っている．今後本事業では，本学の未来人材育成機構(R5発足)での議論や，数理・データサイエンス教育センターが拠点校を務める九州・沖縄ブロックの大学・高専の議論なども通して，連携の実効化を図る．	「中学生の科学実験教室」についてはR7年度も予定通り実施し，86名（男子50名，女子36名）が参加した．高校生については，出前講義等の個別対応，および未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を実施した．QFC-SPについて，R7年度は全学で634名の志願者があり，このうち544名をQFCプライマリー生（主として講義を受講）として採択し，さらにそのうちから46名をQFCリサーチ生（研究室に配属され研究を行う）として採択した．志願者数は去年の337名から倍増近くになった理由の一つとして，本学に、QFCリサーチ生レベルを対象とした「次世代博士人材育成コース」が新設されることが挙げられる．情報学に関連しては，QFCリサーチ生のうち5名が「Information & Machine Learning」コースに所属し，7名が「Design & Media」コースに所属した． さらに，文科省高等教育局専門教育課との相談の上，県内のDXハイスクール校の支援を行った．具体的には，R7年5月末に県内の大学とDXハイスクール校の交流イベントを実施し，大学11校、高校13校が参加した．本イベントには，文部科学省高等教育局および初等中等教育局も参加し，イベント後には高大連携のグッドプラクティスとして，同省ホームページに掲載されている．R8年7月には再び同イベントを開催する予定である．これに加え，福岡県高等学校教科等研究会情報科研究部会とも連携を行い，11月には同部会に対して本学や九州沖縄での情報系教育活動の紹介を行った．	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
以下の取り組みを継続する．まず女子学生確保について，①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム，上記QFC-SPとは別で，シス情では毎年4名程度の生徒を受け入れ），②リケジョ講演会，③Voice of Women in Engineeringを毎年発行・配布，など高校時代からの誘導を図る．社会人学生確保については，④ADS育成室における社会人向け「データサイエンスプロ短期集中コース」（R5からはオンデマンド配信を予定），⑤EnPiT−Proでの社会人向けリスキリング講座，⑥社会人学生の参画を容易にするための「長期履修制度」（授業料はそのままで通常よりも在学期間を延長できる制度）を活用する．さらに留学生確保については，⑦大学院グローバルコース（英語による講義・指導で修了可能），⑧海外オフィス（欧米アジア計7か国）＆ブランチオフィス（アジア＆トルコ計4か国）での勧誘活動，⑨リクルーティング活動（オンラインウェビナー or 現地で開催．他大学との合同を含め，R4実績で32回開催，アジア・アフリカが主たる対象），などを活用する．	①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム）では，全学で47名を受け入れ，システム情報科学府では3研究室に4名が配属されてプログラムを受講した．②R7.8のオープンキャンパス時に，女性教員による講演を中心とした「女子高生向け交流会」を実施し，43名の参加を得た．③R7年度もVoice of Women in Engineeringを発行した．この他，旧帝大＋東京科学大８大学の情報系研究科等共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を実施し，本学でも15名（すべて女子中高生）を対象に現役女子学生等との懇談を行った．社会人学生確保の④⑤⑥は継続実施（④⑤については4-1-①も参照のこと）．留学生確保に関する⑦⑧⑨も継続実施中．⑦について，R7年度の実績は2名であった．なお，システム情報科学府情報理工学専攻の修士学生については，R8年度入学生162名のうち69名が留学生であり，十分に確保できていると言える．⑨R7年度は留学生を対象としたリクルーティング活動を5か国で9回開催．延べ参加人数は340名であった．	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
R5年3月，本学は「九州・沖縄地区オープンユニバーシティ（KOOU）」を提唱，九州沖縄の11国立大学の間で研究力向上のための連携推進を決定し，本事業期間には教育に関する連携強化も図る．加えて，本学の数理・データサイエンス教育研究センターでは，九州沖縄ブロックの拠点校として国公立に多数の私学・高専も加えたデータサイエンスAI関連教育連携体制（39校）をすでに築いている．またADS育成室や価値創造型半導体人材育成センターでは，熊本大・九工大と合同での教育プログラムを構築している．半導体については，台湾の工業技術研究院と陽明交通大に本学大学院生を派遣するプログラムをR5より実施予定である． システム情報科学府の博士課程では，国際インターンシップを単位化しており，渡航助成金を支給してその活性化を図っている．同制度の実施開始以来，毎年平均4人の博士学生が助成金を得て，海外トップレベル大学にてインターンを実施している．こうした国際連携教育は，全学レベルの交流協定校に加え，同学府独自の交流協定校（17カ国，32大学）によっても支えられている．	本学の数理・データサイエンス教育研究センターが拠点を務める「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 九州沖縄ブロック」の会議を2回実施し，初回は39大学・高専・高校と3企業・4官庁が，2回目は36大学等と3企業・4官庁が出席し，産学連携や高大連携，情報教育の現状，生成AIの講義活用や入試対策など多彩な内容を議論した．価値創造型半導体人材育成センターでは，博士2年生1名を6ヶ月，博士1年生1名を1ヶ月，合計2名を陽明交通大インターンシップに派遣した．また、システム情報科学府の博士学生から5名が海外インターンシップに参加した．またこれらとは別に，JST-ASPIREに５研究室が採択されており，当該研究室では，複数の学生を海外パートナー機関に派遣している．	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	九州大学

４－２.審査要項における確認項目（３つの取組、６つの観点）の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ申請時の計画を記載してください（３つの取組のみ計画の記載は不要です）。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

＜３つの取組＞

- ■ チェック　[１]海外のトップ大学と連携するなどして、デジタル分野の第一人者として国際的に活躍できる世界トップレベルの研究者や技術者の輩出を図る取組となっているか。
- ■ チェック　[２]デジタル人材の不足を解消するために、自大学の教育の高度化や定員の大幅な拡充を図るのみならず、他の大学・高等専門学校の学生も広く参加可能な優れた情報教育プログラムを横展開させる取組となっているか。
- ■ チェック　[３]地域や国の産業戦略とも連携しながら、企業等の具体的な実務課題の解決に取組むことで企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出することにより、地域や我が国の産業振興に大きく資する取組となっているか。

取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
取組[1]については，研究大学として,世界トップレベルの研究に携わった大学院生を輩出している．実際，SciVal等で論文数（全体論文数，トップ10%引用論文数など．これら論文の大半は大学院生の研究成果に関する）を調査すればわかるように，情報系分野における研究力は近隣の他大学を大きく凌駕している．なお，情報理工学専攻の担当教員には，若手研究者を積極的に採用している（全教員の約半数が若手研究者）．その結果，同専攻のカリキュラムにより，最新の情報学が学べるようになっている． 取組[2]については，自大学において「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことを目的とした「情報学副専攻」が中心であり，これはR7年度中に本格稼働した．同専攻の新設科目群だけでも、延べ333名が履修登録し，延べ220名が単位を取得した．当初の狙いどおり,文理を問わず,全学のさまざまな分野から学部生・大学院生が受講した．また本プログラム修了者には修了証としてオープンバッジを発行しており，初年度１年目にも関わらず，21名の修了者に発行した．他大学への横展開（オープン化）については，本学も重要視しているところである．情報系副専攻科目の教材のオープン化も行い，以下，4-2-⑥にて述べるように，従前以上に進捗している． 取組[3]については，以下4-2-②③⑤で述べるように，共同研究，実務家教員派遣，インターンシップなど，企業とは様々なレベルで連携している．また，上記「情報系副専攻」のゴールは，まさに「企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出」である．情報系理工学専攻だけで全産業分野からの人材ニーズを賄うことが現実的でない以上，「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことこそが最適なアプローチであると考えている．こうした全分野における情報系教育の横展開は，本学においてもすでに様々な実績があり，今回の「情報系副専攻」は，ある意味それらの集大成的なものとも言える．その進捗に関して，特段の懸念事項はない（本部執行部も学内各部局も極めて前向きに捉えている．）	

＜６つの観点＞

① 大学院博士課程を含め、情報系分野の大学院において、大規模な定員増を実施する計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本事業では，九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の博士前期課程（以下，修士課程）を30名増員し，博士後期課程（以下，博士課程）を5名増員する．修士課程については，もともと85名定員であったものを，R3年度改組の際に20名増員して105名定員としたばかりであり，これを今回30名増員することで，135名定員とすることになる．すなわち，修士定員をわずか5年間で1.6倍にする計画となっており，極めて大規模な定員増であるといえる．博士課程についても，現在の定員29名の約12%増となる34名とする． システム情報科学府情報理工学専攻は，情報アーキテクチャ・セキュリティコース，データサイエンスコース，AI・ロボティクスコースで構成され，情報学の基礎理論から応用まで学ぶことができる．（なおコースは修了時に決定すればよく，履修時にはコースにとらわれない幅広い学びが可能である．）さらに同学府内の電気電子工学専攻の講義も履修でき，米国MIT同様，ソフトとハードの両面を学ぶことができる．	九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の修士課程を30名増員する計画が承認され，新定員（135名）に基づいて入試を実施し，R7年度については167名が入学した．カリキュラムについて，R7年度中に大きな変更はなかった．なお，博士課程の定員増（29名→34名）は，R9年度であるため，R8年度中に概算要求する予定である．	

② 広く企業や自治体等と連携し、企業や自治体等が求める人材ニーズに的確に応える計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学が指定国立大学採択に伴い今後の方向性を制定したVISION2030の8項目のうちの1つは「社会共創」である．そこでは「知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し，研究教育活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウェルビーイングの向上に貢献する」として自治体や企業等との連携拡充を謳っている．これらに先駆け，情報教育の場においては，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する． 博士学生については，R5年4月に「未来人材育成機構」を発足，情報系も含めた全学博士に対して，実務家教員も活用しつつ様々なキャリア支援を行う予定である．これに加え，システム情報科学府では独自に博士のメンター教員（企業経験者）を配置して，キャリア支援を行っている．	本様式4-1-①で述べた通り，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，情報学関連について多方面の産学官連携教育を実施した．エキスパート人材として輩出ニーズが高い「数理・DS・AI」博士学生については，R6年4月1日に採択されたAI系に特化した博士支援制度「次世代AI人材育成プログラム(JST-BOOST)」での経済的支援を行っており，厳しい選考により総定員35名の学生（一部はR8年4月入学生）を採用し支援を行っている．なお本学はBOOST以外にも，「JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（JST SPRING）」にR3年度より継続採択されており，こちらでもデータサイエンス科目を選択科目として導入するなど，数理・DS・AI人材の育成を後押ししている．SPRING/BOOSTのプログラムにおいても企業の研究所長やマネージャークラスによるセミナーやパネルディスカッションを開催しており，経済的支援だけでなくキャリア支援も行っている．	

③ 連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
上記VISION2030には，8項目の1つとして「財務基盤」の強化も謳われている．全学において，多様かつ安定的な財源確保と運用を行うことの宣言であり，具体的には「組織対応型連携の強化による外部資金の拡大」「大学発ベンチャーの創出加速による知財収入等の拡大」「国内外の同窓会組織など、多様なステークホルダーとの連携強化による寄附金収入の拡大」を掲げている． 情報理工学専攻を担当するシステム情報科学研究院の教員（教授44名，准教授36名，助教39名）も，外部資金獲得には非常に積極的である．例えば，R4とR5の2年間だけで，3件の科研費基盤S代表課題が採択されている．（現教授の約16%にあたる7名が基盤S代表経験を持つ．）科研費全体（継続課題含む）では，R4の採択が93件（直接経費391百万円）に上っている．他にもムーンショットやCREST代表課題に加えて，若手向け外部の資金JST-ACT-I/ACT-Xの情報系4領域においての採択実績が多数ある．また，R4の共同研究契約は82件，受託研究契約68件に上る．	R7年度は，60件合計102百万円の寄附を受けた．内訳は財団系38件，企業系14件，その他8件であった．これらとは別に，半導体分野の発展を目的とした「日米UPWARDSプログラム」のために，半導体企業（Micron, TEL)より50.7百万円の寄付を受けた． システム情報科学研究院の科研費採択状況も堅調である．科研費基盤S代表課題3件，学術変革領域研究（A)領域代表1件が実施されている．科研費全体（継続課題含む）では，R7年度の採択が95件であり，その受け入れ額は前年度よりも37百万円増加している．他にも5千万円を超える大型競争資金も4件（合計415百万円）にのぼる．このように、教員が様々な情報系の研究領域において活動の幅を広げている．また，R7年度の共同研究契約は81件（前年度より81百万円増），受託研究契約80件（前年度より22件増・425百万増）に上る．なお，共同研究契約81件のうち組織連携型は10件であり，そのすべてが情報系企業である．	

④ 高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
過去5年分の統計によれば，情報系の日本人博士修了生のうち，全体の37%（社会人博士を除けば全体の約50%）が大学等アカデミアに就職している（残りは企業就職）．このように本学では着実に情報学エキスパートを輩出してきた．本事業による情報系大学院増員により，アカデミア人材輩出機能がさらに強化される． 本計画では，情報系副専攻を開設し，文系・理系を問わずすべての学生に対する情報系教育を強化することで，こうした情報学の素養を持った人材を全学術分野において輩出する．情報系副専攻は学部を基本とするが，リスキリングを希望する大学院生の参加も大歓迎する．彼らは自身の研究分野に情報系技術を活かせるエキスパートになるため，修了後に自分野教員に着任することで各分野において情報人材育成に寄与することになる．本学では「オープンサイエンス & オープンエデュケーション with オープンマインド」のスローガンの下，６年前より数理・データサイエンス教育研究センターを中心として，全学体制でデータサイエンス・AI教育に当たってきた．この全学協力体制や教育ノウハウを，今回の情報系副専攻においても十分に活かす．	R7年度末の情報理工学専攻博士課程修了生21名のうち，5名がアカデミアに就職している．残り（社会人博士も含む）は企業研究所等に所属しており，適度なバランスであると言える．また，R6年度末での同専攻修士課程修了生118名のうち，前年度と同じ19名が博士課程へ進学（内部進学）しており，今後の教員候補生になると期待される． 全学全分野において情報系の素養を持った学生を輩出するための「情報系副専攻」については，R7年度から本格稼働している．前述の通り，同専攻の新設科目群だけでも，文理を問わず，全学のさまざまな分野から学部生・大学院生が延べ333名履修登録し，延べ220名が単位を取得した．情報系副専攻科目の中でも，分野別応用科目群（いわゆるX-インフォマティクスを学ぶ群．Xとして物理，化学，生命，人文，社会の5科目）についても，それぞれ25,26,14,23,44名の履修登録があり，18, 19, 12, 20, 33名が単位を取得している．	

⑤ 連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報理工学専攻においては，産業界からの実務家教員による講義が，すでに複数実施されている．具体的には，毎年10名を超える実務家教員が講義を担当し，ソフト・ハード両面における産業動向に関する最新状況を教授している．またこれとは別に，九州経済産業局やふくおかアイスト（福岡県産業・科学技術振興財団）など，産業界とのリエゾンと連携した教育事業を行っており，例えばADS(Advanced Data Scientist)育成室では，様々な企業の実データを用いたエキスパート教育を展開している．なお，システム情報科学研究院の教授陣には元々企業に所属していた者が多い．特に情報知能工学部門では，21名の教授・准教授のうち半数の11名が企業出身者であり，デジタル技術の社会応用も踏まえた教育研究を実施している． 本計画では，こうした産業界との連携をさらに強化する予定である．例えばデータサイエンス・AI教育については，現在九州経済産業局との協力を深めており，まずは「企業からの教材提供」といった連携を予定している．また，今年度から強化を図る半導体教育においても，世界的な激流の中にある半導体産業の動向を学べる「半導体技術マーケティング特論」を実務家教員が担当する予定である．博士のインターンシップについても前述の未来人材育成機構による推進や，半導体企業への国際インターンシップ(R5.5プレスリリース済)も予定されている．	4-1-①で回答したように，EnPiT-Proにおけるセキュリティ教育や，価値創造型半導体人材育成センターにおける半導体教育において，実務家教員による講義が積極的に導入されている．また，数理・データサイエンス教育研究センターにおいては、九州経済産業局との「持続可能な産学連携教育」を進めた．この中で産学それぞれが提供可能な実務家教員・リスキリング教育を共有するプラットフォームの試作を終え，利用を開始した． 学生のインターンシップについて，2週間以上実施するものについては，博士・修士ともに単位化（2単位）している．なお，博士学生については，4週間以上の場合は「長期インターンシップ」として4単位の取得が可能である．半導体関係のインターンシップも計画通り実施を開始している．なお，昨今の就活前倒し（特に情報系は修士1年進学後直後に就活を開始）の傾向もあり，教員側の主導がなくても，多くの学生がインターンシップに参加している． 共同研究についても，4-1-①で回答した通り堅調である．システム情報科学研究院の教授陣には元々企業に所属していた者が多く，情報理工学専攻担当者の56名の教授・准教授のうち11名が「5年以上民間等勤務」という条件を満たす実務家教員であり，さらに5年未満を含めれば約半数の27名が民間等の大学外での勤務経験を持っている．このため同専攻では，デジタル技術の社会応用も踏まえた教育研究を実施していると言える．	

⑥ 他大学等の学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成等を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では「情報系教育のオープン化」を推進しており，本事業でもそれを強化する．前述の通り，本学のデータサイエンス・AI教材についてはSNSでも度々話題になるほどで，自由にダウンロードできるPDF形式の資料だけでなく，改変可能なパワーポイント形式の資料も無償配布している．こうした教材のオープン化については今後も積極的に推進する．データサイエンス講義については，録画済み動画だけでなく，他大学へのオンライン講義配信も検討する．また，データサイエンス(ADS育成室)，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)，半導体(価値創造型半導体人材育成センター，R5発足)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進するとともに，それら教材もできるかぎり公開することで，情報学教育のオープン化・共有化を実現していく計画となっている．	本学では，以前よりDS・AI 系の講義資料（スライド教材，現在35 単元分）のオープン化を実施してきた．同教材のPDF 形式のファイル群は，本学ホームページにて無償公開しており，こちらは常時，誰もがダウンロード可能である．一方，改変・編集可能なバージョン（PPT 形式）についても，メールによる依頼により無償提供してきた．特に「データサイエンス概論」については，R7 年度中に42 の大学・企業等に配布しており、累積配布先数は232 件となった（内訳：41 国立大学，17 公立大学，81 私立大学，10 高専，5 専門学校，12 高校，25 企業，3 省庁・自治体，32 個人，6 その他）．R7年度後半には，情報系副専攻の新規9科目（コア科目群と分野別応用科目群）の講義資料についてもPDF公開を開始し，依頼に応じてPPT形式での無償提供も行っている．公開後の数か月で既に4件の依頼を受け，実際にPPTファイルを提供した．こうした教材のオープン化以外に，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)や半導体(価値創造型半導体人材育成センター)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進している．	

５－１.大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和7年度 大学院在籍学生の論文の採択・受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

令和7年度に，情報理工学担当教員の原著論文(九大の業績データベース調べ，査読付き国際会議論文を含む)の総数は，中間集計値で176編であった．分野によっては著者がアルファベット順であったり，また在学時に執筆して修了後に発行された論文などもあるため，学生が筆頭著者である数値を出すのは困難であるが，学生が著者となっている論文は多いと考えられる．受賞も，R7年度修了の情報理工学専攻の大学院生だけで72件（昨年度61件）の受賞があった．

５－２.大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和7年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況を記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。

4-2-④でも述べた通り，R7年度末の情報理工学専攻「博士課程」修了生21名のうち，5名がアカデミアに就職している．残りは民間等に就職しており，適度なバランスであると言える． R7年度末での同専攻「修士課程」修了生118名のうち，19名が博士後期課程へ進学（内部進学）している．また修士課程修了生のうち企業就職者88名の産業種別内訳（※）は，「情報通信業」が45%であり，次いで「その他の専門・技術サービス業」「電気・情報通信機械器具製造業」が13%，「卸売業」「はん用・生産用・業務用機械器具製造業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」がそれぞれ5%前後で続いている「情報通信業」のうち2名以上が就職した企業は，NTTドコモ，NTTデータ，日鉄ソリューションズ，パナソニック，アマゾンウェブサービスであった．「その他の専門・技術サービス業」では，アクセンチュアが3名，その他としてLINEヤフー，サイバーエージェント，ベイカレントなどであった．「卸売業」ではソニーなど，「はん用・生産用・業務用機械器具製造業」ではグローリー，京セラドキュメントソリューションズなど，また「電子部品・デバイス・電子回路製造業」ではソニーセミコンダクタソリューションズなどに就職している．（※産業種別は，個々の学生の判断による．）

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	九州大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和5年度	選定時留意事項	高度情報専門人材をどう考え「オープン化」がその育成にどうつながるのかを示し、世界トップレベル人材育成や産業振興に至る筋道を明確にした上で、事業に取り組むことが求められる。	高度情報専門人材とは，第一義的には「情報系の大学院から輩出される」人材である．しかし，その人材だけで，全産業分野で必要とされている人材の量を賄うのは，明らかに非現実的である．そこで，本事業では，第二義的に「情報系以外の学部・学府（研究科）の卒業・修了者であっても，その学部・学府の分野の産業を振興させるに十分なレベルの情報系素養を持った人材」も高度情報専門人材であると考える．このために，R7年度に情報学教育を学内において「オープン化」した「情報系副専攻」を立ち上げ，R6年度はその教育担当人材の選考や，カリキュラム選定を行い，R7年度に大学として正式に開始している．
令和5年度	選定時留意事項	教育・授業コンテンツのデジタル化を通した人材育成に当たっては、さまざまな情報技術等を活用し、スライド中心の教材による知識習得にとどまらない更なる実践的な教育が求められる。	本学は研究大学であり，情報理工学専攻においても，大学院生は世界レベルの研究を遂行してこそ，ようやく修了となる．その意味で，単なる既存スライドを学んだだけで終わるような教育はあり得ず，必要な技術を自ら創造して実装するプロセスを含んだ高度な実践教育が実施される．なお，情報系以外の他部局の学生が「情報系副専攻」を履修する場合も，単なる座学では終わらない．すなわち，画像解析・言語理解・計測処理という，方向性の異なる３つの「応用プログラミング演習」を同副専攻の中心軸として実施している． 授業の実施方法についても,様々な工夫を行っており,例えば, ・過去の受講生の質問履歴データを活用した，質問応答チャットボット（生成AI）の導入 ・オンライン議論ツール slack,miro（オンラインホワイトボード）を用いたグループワーク実施 ・プログラミング授業における学生間の遅速差に対応すべく，教授内容の聞き直し可能なYouTube Live配信を行い,その後、録画したものを公開することで教授内容の聞き直しを可能にするなど,先進的な方法を取り入れている。
令和5年度	選定時留意事項	女子学生獲得の方策を講じることが求められる。	様式2-2-2の第4-1-③項にて述べたように，様々な対策を講じている．特に女子高校生・中学生に対するアプローチを心掛けている．特に他大学と共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を実施し，本学でも15名（すべて女子中高生）を対象に女性教員によるキャリアパスの説明や女子学生等との懇談を行った．また，女性教員の増加も，女子学生獲得と親和性が高いと考えており，本事業開始後に情報理工学専攻を担当する２名の女性教員（准教授）および情報系副専攻を担当する2名の女性教員（講師）を採用している．

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）	本事業対象となる研究科等の個数	1

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1－1.博士課程

<内訳>

(1) 改組組織名：システム情報科学府情報理工学専攻

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定			届出															
事業計画に定める定員		入学定員	人	29	29	29	29	34	34	34	34	34	34									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	29	29	29	29															
		入学者数	人	22	21	31	30															
		女子学生数	人	3	4	5	2															
		社会人学生数	人	4	1	1	1															
		留学生数	人	15	19	15	13															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	8	14	17																
		女子学生数	人	1	3	3																
		社会人学生数	人	2	3	1																
		留学生数	人	6	12	14																
	入学者合計	入学定員(A)	人	29	29	29	29	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	30	35	48	30	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	4	7	8	2	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	6	4	2	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	21	31	29	13	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.21	1.66	1.03		-	-		-	-			-	-			-	-	
	収容定員等	収容定員(C)	人	87	87	87	87															
		在籍者数(D)	人	80	100	114	136															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.92	1.15	1.31	1.56		-	-		-	-			-	-			-	-	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	6	29	18			-	-		-	-			-	-			-	-	
		就職者数	人	6	17	11																
		進学者数	人	0	0	0																
		その他	人	0	12	7																
		進路不明	人	0	0	0																
	大学院博士課程	満期退学者数	人	2	4	3																
		学位取得者数	人	6	15	20																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	16	15	14	14															
		授業科目の単位数	単位	66	61	76																

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1－2.修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報科学府情報理工学専攻

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定	届出	増員	完成年度															
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	105	105	135	135	135	135	135	135	135	135									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	105	105	135	135															
		入学者数	人	133	120	165	156															
		女子学生数	人	9	9	15	6															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	39	48	69	67															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	3	1	2																
		女子学生数	人	1	0	1																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	3	1	2																
	入学者合計	入学定員(A)	人	105	105	135	135	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	136	121	167	156	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	10	9	16	6	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	42	49	71	67	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.30	1.15	1.24	1.16	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	210	210	240	270															
		在籍者数(D)	人	248	268	297	327															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.18	1.28	1.24	1.21	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-		
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	98	131	118	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-		
		就職者数	人	85	100	88																
		進学者数	人	11	19	19																
		その他	人	2	12	11																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	24	15	14	15															
		授業科目の単位数	単位	39	25	20																

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

2.情報系組織の状況

2－1.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	45	45	45	45															
		入学者数	人	32	32	35	42															
		女子学生数	人	5	4	5	3															
		社会人学生数	人	9	3	1	5															
		留学生数	人	21	25	17	15															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	14	15	20																
		女子学生数	人	2	3	4																
		社会人学生数	人	5	3	2																
		留学生数	人	9	13	15																
	入学者合計	入学定員（A）	人	45	45	45	45															
		入学者数（B）	人	46	47	55	42															
		女子学生数	人	7	7	9	3															
		社会人学生数	人	14	6	3	5															
		留学生数	人	30	38	32	15															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.04	1.22	0.93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	135	135	135	135															
		在籍者数(D)	人	147	161	157	183															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.09	1.19	1.16	1.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	14	50	32																
		就職者数	人	13	28	21																
		進学者数	人	0	0	1																
		その他	人	1	22	10																
		進路不明	人	0	0	0																
	大学院博士課程	満期退学者数	人	3	7	3																
		学位取得者数	人	12	33	31																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	21	20	23	20															
		授業科目の単位数	単位	90	85	110																

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

2.情報系組織の状況

2－2.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	170	170	230	230															
		入学者数	人	212	198	260	251															
		女子学生数	人	13	11	21	16															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	58	67	99	89															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	8	1	5																
		女子学生数	人	1	0	1																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	8	1	5																
	入学者合計	入学定員（A）	人	170	170	230	230															
		入学者数（B）	人	220	199	265	251															
		女子学生数	人	14	11	22	16															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	66	68	104	89															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.29	1.17	1.15	1.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	340	340	400	460															
		在籍者数(D)	人	425	441	476	521															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.25	1.30	1.19	1.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	181	219	200																
		就職者数	人	156	176	157																
		進学者数	人	17	25	27																
		その他	人	8	18	16																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	45	20	22	21															
		授業科目の単位数	単位	77	35	35																

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

2.情報系組織の状況

2－3.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	153	153	153	153															
		入学者数	人	152	155	152	150															
		女子学生数	人	14	15	12	2															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	5	6	4	2															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	4	5	3																
		女子学生数	人	1	0	0																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	4	5	3																
	入学者合計	入学定員（A）	人	153	153	153	153															
		入学者数（B）	人	156	160	155	150															
		女子学生数	人	15	15	12	2															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	9	11	7	2															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.05	1.01	0.98	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	459	612	612	612															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	697	678	657	655															
		編入学者数	人	21	17	11	14															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.52	1.11	1.07	1.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	158	172	154																
		就職者数	人	23	14	13																
		進学者数	人	130	153	137																
		その他	人	5	5	4																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	31	19	18	15															
		授業科目の単位数	単位	126	63	72																

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

3.大学全体の状況

3－1.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	779	779	779	725															
		入学者数	人	524	589	612	556															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	183	180	166																
	入学者合計	入学定員（A）	人	779	779	779	725	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	707	769	778	556	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.91	0.99	1.00	0.77	-	-	-	-											
	収容定員等	収容定員（C）	人	2,602	2,601	2,600	2,330															
		在籍者数（D）	人	2,589	2,722	2,775	2,785															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.00	1.05	1.07	1.20	-	-	-	-											

3.大学全体の状況

3－2.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,799	1,799	1,859	1,939															
		入学者数	人	1,796	1,806	1,869	1,954															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	177	148	176																
	入学者合計	入学定員（A）	人	1,799	1,799	1,859	1,939	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	1,973	1,954	2,045	1,954	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.10	1.09	1.10	1.01	-	-	-	-											
	収容定員等	収容定員（C）	人	3,602	3,588	3,648	3,788															
		在籍者数（D）	人	4,046	4,064	4,060	4,282															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.12	1.13	1.11	1.13	-	-	-	-											

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

3.大学全体の状況

3－3.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,549	2,549	2,549	2,549															
		入学者数	人	2,612	2,609	2,594	2,601															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	34	43	39																
	入学者合計	入学定員（A）	人	2,549	2,549	2,549	2,549	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	2,646	2,652	2,633	2,601	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.04	1.03	1.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	10,659	10,663	10,657	10,652															
		編入学定員	人	60	70	70	70															
		在籍者数（D）	人	11,707	11,710	11,687	11,630															
		編入学者数	人	51	74	71	66															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.10	1.10	1.10	1.09															

4.外部資金の状況（全学）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
競争的外部資金等の状況	全体	研究者数	人	3,431	3,515	3,497	3,459															
		外部資金獲得額	千円	27,972,466	22,172,223	31,852,889	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	共同研究	実施件数	件	912	956	969																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	836	877	882																
		受入額	千円	3,409,795	3,433,547	3,529,067																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	2,961,388	2,954,934	2,970,586																
	受託研究	実施件数	件	955	1,073	1,145																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	175	196	230																
		受入額	千円	12,443,414	13,564,201	15,015,903																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	422,178	362,623	580,689																
	寄附金	実施件数	件	7,020	6,390	6,509																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	796	741	739																
		受入額	千円	3,245,094	3,513,826	3,888,873																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	1,086,914	1,289,347	1,160,655																
	その他	受入額（上記に当てはまらないもの）	千円	8,874,163	1,660,649	9,419,046																

特記事項

その他の学期の入学定員0人とは、定員が若干名であることを意味している。